

Robotics Report

新たな常識のはじまり

ロボット革命を進化させる クラウドサービス

nikko am
fund academy



ロボット産業は、産業用ロボットの高性能化に加え、協働ロボットやサービスロボットの製品化が進むなど、将来的に大きな拡大が見込まれています。近年では、中小・ベンチャー企業が効率的にロボットの開発・運用が行なえるよう、クラウドを活用したソリューションも登場しています。

■ ロボット開発・運用の重い負担を解決

近年、AI（人工知能）を搭載した「知能型サービスロボット」が注目される一方で、運営企業がロボットを開発したり、世界規模でロボットを運用する場合、数千～数万台のロボットの保守・管理や定期的なアップデートが必要となり、人的にも金銭的にも重い負担を強いられます。この負担を軽減するために登場したのが、クラウドサービスの世界大手・アマゾンウェブサービス(以下、AWS)が提供する「AWS RoboMaker」(以下、RoboMaker)で、日本でも活用され始めています。

RoboMakerとは、ロボットの開発環境や検証時間を短縮するシミュレーション、フリート管理(リモートでアプリケーションの運営・更新などを管理)などをクラウドベースで提供するサービスです。

AWSでゼネラルマネージャーを務めるRoger S. Barga氏は「200社以上のロボット関連会社の課題をヒアリングして、RoboMakerを立ち上げた」と内情を話しています。AWSで開発した画像・音声認識などのAIモデルを簡単にロボットに実装することも可能で、NASAの研究所やルンバで有名なiRobot社、竹中工務店などで活用されています。



※2月のロボデックスセミナーでRoboMakerを解説するBarga氏

■ 真のロボット革命には開発環境の民主化が必要

「RoboMakerを利用する米Bastian Solutions社では、実際にロボットを使うことなく、クラウド上で35台以上の機体の稼働シミュレーションが行なえるようになった」とBarga氏は言います。また、RoboMakerはAWSのクラウド上のさまざまなサービスと連携することで、運営企業が世界中で稼働するロボットを一括管理することができる、と話しています。



※AWSのBarga氏

さらに、RoboMakerをレベルアップし、宅配ロボットや倉庫用ロボット、歩行型ロボットなどの開発・運用環境を向上させる計画がある、とのこと。 「AWSを立ち上げた理由と同じで、多くのベンチャー企業がロボットビジネスに参入できる環境を作りたかった。ロボット開発の環境が“民主化”し、多くのイノベーターが参加してこそ『真のロボット革命』を起こせると思っている」とBarga氏はRoboMakerを投入した想いを語っています。

ロボット産業がさらに成長するためには、運営・開発企業に対して、アイデアの着想から商品化までの期間短縮や開発コストの削減、運用から管理までを効率化するソリューションの提供が求められます。今後、RoboMaker以外にも、どのようなサービスが登場するかに注目です。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。